

モデル事業名	北杜市企業のはたけ倶楽部の制度構築と社会実験による運用
活動団体名	特定非営利活動法人えがおつなげて
ホームページ	<a href="http://www.npo-egao.net/">http://www.npo-egao.net/</a>
所属/ 担当者名	曾根原久司 〒408-0115 山梨県北杜市須玉町大豆生田1175
連絡先	TEL:0551-42-2845 FAX:0551-42-3658 E-mail:sonehara@npo-egao.net
活動地域	山梨県北杜市内

### ● 活動地域の概要

山梨県北杜市は、山梨県の北西部に位置し、面積603km<sup>2</sup>、人口49,290人（平成22年1月現在）、高齢化率28.5%（平成20年8月）である。明野町、須玉町、高根町、長坂町、大泉町、小淵沢町、白州町、武川町の8つの町、さらに72の地域（大字）で形成されている。主要な産業であった農業の農家人口は、平成7年23,736人、平成12年22,218人、平成17年18,855人と大きく減少し、それに伴って、耕作放棄地は722haに増え、山梨県内の自治体の中で最大となっている。（ちなみに、山梨県の耕作放棄率は、日本で第2位）



【北杜市位置】



【北杜市須玉町の耕作放棄地】

### ● 活動地域の課題

北杜市の耕作放棄地は722haとなり、山梨県内の自治体の中で最大となっている。（ちなみに、山梨県の耕作放棄率は、日本で第2位。）これは地域に農業の担い手が不足した結果である。北杜市では、集落営農組織を作り、農地の保全に努めているが、地域内で解決できる遊休農地面積を既に大きく超えてしまっている。そこで、平成20年度より、企業との連携で、遊休農地を活用する仕組みを作る活動を行っている。平成20年度の活動で、北杜市の遊休農地の活用に関心を示す企業が中心となって、北杜市企業のはたけ倶楽部が15社で発足した。その一方で、課題となってきたのが、北杜市の地域の受け皿組織とコーディネーターの発掘、育成である。

### ● 活動の内容

・平成20年度

1. 北杜市企業のはたけ制度の構築（検討委員会、企業アンケートの実施等）
2. 北杜市企業のはたけ倶楽部の創設（企業のはたけ倶楽部HPの開設、倶楽部の告知等）
3. 企業のはたけ倶楽部のマッチングモデルツアーによる社会実験
4. 北杜市企業のはたけ制度、企業のはたけ倶楽部の構築
5. 成果のとりまとめ、担当地方整備局等へのモデル事業結果の報告

## ・平成21年度

### 1. 北杜市内集落アンケートの実施

地域の受け皿組織発掘のために、北杜市内集落へアンケート調査を実施。同市内の担い手法人、また、中山間直接支払制度、農地水環境保全施策に取り組む集落の計191団体を対象として実施。アンケートの内容は、北杜市企業のはたけ倶楽部への参加意向、集落の遊休農地の状況とその要因等について。

### 2. 企業アンケートの実施

北杜市企業のはたけ倶楽部への加入、また、北杜市の遊休農地の活用への関心、意向について、企業アンケートを実施。対象企業は、公共事業の減少により、農業への新規参入が増加傾向にある山梨県内の土木建設業者239社と、安心安全な原料調達や、農業への新規参入へのニーズが高い東京都内の食品企業122社の計361社。

### 3. 第1回北杜市企業のはたけ倶楽部制度検討委員会の実施

- ・日時：2009年11月21日13時半～16時半
- ・場所：北杜市役所西館会議室
- ・出席者：三菱地所株式会社 CSR推進部 部長西貝昇  
ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表大和田順子  
山梨中央銀行 込山紀章  
増富地域再生協議会 会長小林  
北杜市農業振興公社  
北杜市役所産業観光部農政課 小澤隆二  
山梨県農政部農業技術課 千野正章  
山梨県農政部農村振興課 勝俣  
山梨県観光部 小野光明  
やまなし観光推進機構 糸井和夫  
国土交通省関東地方整備局建政部  
特定非営利法人えがおつなげて

- ・議事 ①北杜市企業のはたけ倶楽部構築について  
②今年度のスケジュール  
③北杜市の耕作放棄地状況  
④農地制度の見直しの概要  
⑤北杜市内集落アンケート結果を踏まえての受け皿組織の状況  
⑥企業アンケート経過報告を踏まえてのマッチングツアー実施方法について  
⑦行政・民間の連携による中間支援組織のあり方

### 4. 北杜市企業のはたけ倶楽部マッチングバスツアー

2009年12月8日に、アンケートにて参加意向を示した企業11社20名と、同じく、アンケートにて参加意向を示した北杜市内の3集落から代表者が参加して、マッチングツアーを実施。ツアーでは、明野町の大規模集積農地、増富地区日向集落の耕作放棄された棚田、えがおつなげての企業のはたけを視察し、最後に情報交換会を行った。昼食には地元のお母さんたちによって、そば稲荷や、ほうとうといった郷土料理が用意された。また、ツアー中の移動時間には、山梨中央銀行や、山梨県からの融資の案内、北杜市からの遊休農地活用時の助成についての情報提供もおこなわれた。

### 5. 第2回北杜市企業のはたけ倶楽部検討委員会の開催（予定）

- ・日時：2010年2月2日 13時半～16時半開催予定
- ・場所：北杜市役所西館会議室
- ・議事 ①企業アンケートの最終結果報告  
②マッチングバスツアーの結果報告  
③ツアー参加企業へのアフターフォローの方法について  
④受け皿組織の体制について  
⑤行政・民間の連携による中間支援組織のあり方

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

平成20年度は2回の検討委員会と、「北杜市企業のはたけマッチングツアー」を1回開催した。3月に開催したマッチングツアーには、北杜市の遊休農地活用に何らかの関心がある17社22名が参加した。さらに、北杜市企業のはたけ倶楽部へは15社が加入した。このことから、地域外の企業を巻き込んだ、新しいコミュニティの創生へ向けての活動は、順調に進んでいるものと考えている。これによって、遊休農地の活用方法において、従来の農業生産のみならず、CSR や体験活動や観光等の新たな要素を取り込むことによって、遊休農地活用におけるさらなる新たなコミュニティの創生に発展する可能性がある。

さらに、2回の検討委員会においては、地域の遊休農地の問題を、地域の北杜市行政や農業者だけで検討するのではなく、NPO、企業、山梨県等が参加して一緒に検討することで、コミュニティ的存在が生まれてきている。



マッチングツアーにおいて、須玉町増富地区にあるえがおつなげの農場を視察



2009年3月24日 第2回検討委員会

### ・平成21年度

平成20年度の活動の結果から、地域に企業を受け入れる体制がないことが課題としてあげられた。そのことを踏まえ、今年度は、北杜市内の集落に地域の遊休農地の状況や、地域の受け皿としての参加を促すアンケートを行った。その結果、3つの集落が参加の意向を示した。その3集落それぞれを訪問し、本事業の説明をおこない、集落の代表者には企業とのマッチングツアーへ参加の承諾を得た。このことで、地域住民に本事業を理解してもらうことができ、遊休農地を抱え、地域の衰退を危惧している集落を巻き込むことができた。また、マッチングツアーに参加してもらうことで、閉鎖的になりがちな地域住民に、企業を受け入れるということがどういうことなのか、イメージを掴んでもらうことが出来た。このことは今回の大きな成果だったと言える。

企業側については、昨年度と同様にアンケートを行った。ただし、昨年度とは対象企業を変えて実施した。今年度は、公共事業の減少により、新規分野への参入を考える、山梨県内の土木建設業者と、食の安心安全に意識の高い、東京都内の食品関係の企業に絞った。アンケートの結果から、食品関係企業、土木建設業者いずれも、農村地域での活動への意識が高く、農作業の受託や、農産物の直接調達といった、農業への新規参入を考えてはいるが、農業技術や、農村地域の情報、参入方法についての情報に乏しいという状況が明らかになった。

集落へのアンケートと、企業へのアンケートの結果を踏まえ、第1回の検討委員会では、マッチングツアーの内容等を検討した。新たに受け皿となる集落への視察については、当初、集落側の住民の合意が図れず、視察は難しい状況であったが、地域の代表者である一人の委員によって説得され、視察が可能となった。また、ツアーの昼食には、地元の郷土料理を取り入れることや、農業へ参入する際の支援についての情報提供を行うこと、



企業のはたけ倶楽部マッチングツアー意見交換会

さらに、企業が具体的にどういった活動ができるのか、メニューを作成することが提案された。課題としては、農村部では、企業による農地の活用がなかなか受け入れられないため、それをいかに理解してもらい、また、いかに住民の合意形成を図っていくのか、があげられた。

12月8日に開催されたマッチングツアーには、企業アンケートで参加の意向を示した、11社20名が参加した。ツアー内容は、増富地区日向集落の遊休農地、明野町の大規模集積農地、すでに企業が活動しているえがおつなげの農場を視察し、最後に農地法改正の情報提供を含めた、情報交換会を行った。また、ツアー中の移動時間の際に



第1回検討委員会

は、農業に新規参入する際の支援についての情報提供もおこなった。

今後は、ツアーに参加した企業へ、継続的な情報提供や、実際に北杜市内で活動をしたい企業と地域とのコーディネートを行う予定である。そこで、開催予定の第2回の検討委員会では、ツアーへ参加した企業へのアフターフォローの方法と、受け皿となる地域の体制について検討する予定である。

## ●今後の課題及び展望

### ・課題

北杜市内集落へのアンケートの結果から、3集落が受け皿としての参加の意思を示したが、その意思はアンケートに回答した集落の代表者の意思であり、集落内の合意は図れていないのが実際である。そこで、課題としては、まず、企業の受け皿組織となるために、集落内の合意形成を行うことである。次に、その集落で企業がどういった活動を行うことが可能であるかを示したメニューの作成が必要である。

### ・展望

農地法の改正により、農業生産法人格を有していない一般企業でも、農地の賃貸借が可能となったことは、本事業の追い風になるといえる。そのため、北杜市企業のはたけ倶楽部の仕組みが構築されれば、北杜市内にとどまらず、全国的に同様の仕組みが普及していく可能性がある。また、企業の農村地域での活動が広がれば、遊休農地に限らず、森林資源や、水資源といった農村地域の資源に目を向ける企業が増えることが予想される。すなわち、本事業は遊休農地の解消にとどまらず、ひいては限界集落や、過疎地といわれる地域の活性化に寄与する可能性があるといえる。